

R3年度 事業名	ライブラーカフェ
R2年度 事業名	ライブラーカフェ

総合戦略 体系	244	若者が住みたくなるまちの創造	ものづくり教育とふるさと学習の推進	市民との協働事業の推進
------------	-----	----------------	-------------------	-------------

PLAN (計画)	部署名	文化の館	開始年度	2005	終了年度	9999
	目的	新たな学びへの扉を開くことを通じて、市民の教養が高まることに資する。				
	概要	文化の館喫茶室という気軽な雰囲気の中で、様々な分野で活動している人の話を聞き、参加者も含めた語らいの場を提供する。				
	コロナ対応 の取組	(R3年度) 行事開催にあたり、新型コロナウイルス感染拡大防止のため会場の変更や、行事参加者人数を絞る。 (R4年度) 行事開催にあたり、新型コロナウイルス感染拡大防止のため会場の変更や、行事参加者人数を絞る。				
法令 根拠		実施 形態	内容			
現在	市直営					

活動指標								
指標名		単位	年度	2018	2019	2020	2021	2022
開催回数(ライブラーカフェコンサート含む)		回	目標値	12	12	6	14	14
			実績値	13	12	4		
成果指標								
指標名		単位	年度	2018	2019	2020	2021	2022
年間参加人数(ライブラーカフェコンサート含む)		人	目標値	600	700	220	500	500
			実績値	698	673	151		
計算 根拠	年間参加人数		達成率	116.3	96.1	68.6		
			実数値					
			ランク	A	A	C		
前年度 ランク B、Cの 理由	新型コロナウイルス感染拡大防止や大雪のため中止となり開催回数が減少したため							

DO
(実施)

【単位:千円】

事業費	区分	2017	2018	2019	2020	2021	タイプ	会計	一般会計
	予算額	100	104	114	112	82		事業タイ	単独事業
	決算額	98	92	71	15			経費区分	物件費

DO(実施)

No	款	項	目	事業	R3年度事業名	予算書額	うち事業額(千円)	
1	10	5	10	201	図書館管理運営費	84,870	82	
2								
3								
4								
5以降								
							合計	82

No	R3年度補助金等名称	金額(千円)
1		
2		
3		
4		
5以降		
合計		0

事業要員	正規職員	0.05
	臨時・嘱託	0.2
	※所要時間	0

CHECK(評価)

法令により実施することが義務づけられているか。
(評価1いいえ・2はい) いいえ はい

行政が実施すべき事業か。
(評価1必要なし〜5必ず実施すべき) 1 2 3 4 5

住民等のニーズはあるか。
(評価1ニーズなし〜5十分にニーズあり) 1 2 3 4 5

国・県または民間のサービスと競合している事業がある。
(評価1はい・2いいえ) はい いいえ

事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業がある。
(評価1はい・2いいえ) はい いいえ

①必要性 評価点数の合計 **13 / 16 A**

効率性

今以上に、コスト削減させる余地はないか。 ある ない

今以上に、ITを活用した業務の効率化などに伴う人員削減させる余地はないか。 ある ない

有効性

今以上に、財源(補助金等、受益者負担など)を確保する余地はないか。 ある ない

今以上に、成果を向上させる余地はないか。 ある ない

②事務改善 評価点数の合計 **13 / 20 A**

ACTION

R3方向性⇒

今年度取組内容
市民から知的好奇心を得る場として好評を得ているので、鯖江図書館友の会と協働で新型コロナ感染拡大防止のための対策を行いながら実施する。

来年度へ向けて
R2年度実績
カフェは4回 151名の参加があった。コンサートは開催しなかった。空調設備等改修工事による休館に加え、新型コロナのための行事自粛、大雪による延期により、予定通り開催できない状況であった。

R2年度実績とR3年度の経過を踏まえた課題
新型コロナ対策のためR2年度初めから行事中止となり、R2年度8月末までにカフェを1回開催したのみ。空調等の工事による9月14日～11月26日の全面休館中も行事開催はできなかった。R3年度も密にならないよう会場を喫茶室から1回ロビーに変更して開催を計画したが、緊急事態宣言に伴う行事自粛方針により開催中止の回もあった。また、今後も感染拡大防止のため、多目的ホールでのコンサート開催についても中止もしくは参加者数を絞っての開催を考えなくてはならない。

実績と課題を踏まえたR4年度の変更点
行事開催にあたり、新型コロナ感染拡大防止のため会場の変更や、行事参加者人数を絞るなどの対策を引き続き行いながら実施していく。

R4方向性⇒

【提案型市民役事業実施】					
年度	2018	2019	2020	2021	2022
取組選択	不可能	不可能	不可能	不可能	不可能
実施状況	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施

R3年度事業名	
市民主役事業にかかる額(単位千円):	
R4年度事業名	
市民主役事業にかかる額(単位千円):	0

取組可能な事業の詳細⇒

R3年度 事業名	映像シアター開催事業
R2年度 事業名	映像シアター開催事業

総合戦略 体系	335	若くて元気のまちの創造	生涯現役で生涯青春のまち	生涯学習体制の充実
------------	-----	-------------	--------------	-----------

PLAN (計画)	部署名	文化の館	開始年度	1995	終了年度	9999
	目的	映像芸術、視聴覚教材に親んでもらうことを通じて、市民へ娯楽を提供するとともに、文化的教養の向上に資する。				
	概要	毎月1回、名画等の鑑賞会を開催するとともに、子ども向け「こどもシアター」を夏休み・春休み期間などに年2・3回開催する。また、映像制作活動を行っている市民グループの作品を合わせて上映する。				
	コロナ対応 の取組	(R3年度) 新型コロナ感染拡大防止のため、ホールの定員1/2以下とし、参加者に上限を設け実施する。その中で、鑑賞者のニーズを把握して満足度を高めるとともに、この事業は広報、ホームページ、館内ポスターにて周知しているが、更に他の施設にポスターを張りPRし参加者の拡大に努める。 (R4年度) 新型コロナ感染拡大防止のため、ホールの定員1/2以下とし、参加者に上限を設け実施する。その中で、鑑賞者のニーズを把握して満足度を高めるとともに、コロナ感染拡大防止のための行事中止には振替日程を設定するなどの対応を検討する。				
法令 根拠		実施 形態	内容			
現在	市直営					

DO (実施)	活動指標								
	指標名		単位	年度	2018	2019	2020	2021	2022
	上映回数		回	目標値	14	14	7	14	14
				実績値	13	13	8		
	成果指標								
	指標名		単位	年度	2018	2019	2020	2021	2022
	年間入場者数		人	目標値	1,100	1,100	340	780	780
				実績値	1,212	1,130	253		
	計算 根拠	年間入場者数		達成率	110.2	102.7	74.4		
				実数値					
			ランク	A	A	C			
前年度 ランク B、Cの 理由	新型コロナウイルス感染拡大による開催中止や入場人数の制限を行ったため								

【単位:千円】

事業費	区分	2017	2018	2019	2020	2021	会計	一般会計
	予算額	65	65	65	66	66	事業タイ	単独事業
	決算額	65	65	65	66	66	経費区分	物件費

DO(実施)

No	款	項	目	事業	R3年度事業名	予算書額	うち事業額(千円)	
1	10	5	12	202	視聴覚教材充実費	227	66	
2								
3								
4								
5以降								
							合計	66

No	R3年度補助金等名称	金額(千円)
1		
2		
3		
4		
5以降		
合計		0

事業要員	正規職員	0.05
	臨時・嘱託	0.18
	※所要時間	0

CHECK(評価)

法令により実施することが義務づけられているか。
(評価1いいえ・2はい) いいえ はい

行政が実施すべき事業か。
(評価1必要なし〜5必ず実施すべき) 1 2 3 4 5

住民等のニーズはあるか。
(評価1ニーズなし〜5十分にニーズあり) 1 2 3 4 5

国・県または民間のサービスと競合している事業がある。
(評価1はい・2いいえ) はい いいえ

事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業がある。
(評価1はい・2いいえ) はい いいえ

①必要性 評価点数の合計 **12 / 16 B**

効率性 今以上に、コスト削減させる余地はないか。 ある ない

今以上に、ITを活用した業務の効率化などに伴う人員削減させる余地はないか。 ある ない

有効性 今以上に、財源(補助金等、受益者負担など)を確保する余地はないか。 ある ない

今以上に、成果を向上させる余地はないか。 ある ない

②事務改善 評価点数の合計 **13 / 20 A**

ACTION

R3方向性⇒

今年度 取組内容
 新型コロナ感染拡大防止のため、ホールの定員1/2以下とし、参加者に上限を設け実施する。所蔵する映像を利用し、子どもから高齢者までが、映像を楽しみ親しむことができる場を提供する。
 また、新型コロナ感染状況が落ち着いたら、映像制作活動を行っている、市民グループの作品を最初に上映することを再開し、郷土の行事等を映像で残す活動を支援する。

来年度へ向けて R2年度の実績
 新型コロナ感染拡大防止のため、ホールの定員1/2以下とし、参加者に上限を設け実施した。開催中止の月もあり、年間入場者数は成果指標を達成することができなかった。

R2年度実績とR3年度の経過を踏まえた課題
 新型コロナ感染拡大によりR2年4月から休館・行事中止となり8月末まで事業実施ができなかった。解除後も感染拡大防止のため、多目的ホールの定員の1/2をまでを参加者の上限とし開催する。また、空調等の工事による9月14日～11月26日の全面休館中も行事開催はできない。
 R3年度も参加者数に上限を設け、事前申込制とした。受付後の緊急事態宣言による行事中止の際は、申込時に聞取りした連絡先に電話して対応している。8月こどもシアターは9月23日に振り替えて実施することとし、半数が振替日に参加を希望した。

実績と課題を踏まえたR4年度の変更点
 新型コロナ感染拡大防止のため、ホールの定員1/2以下とし、参加者に上限を設け実施する。その中、鑑賞者のニーズを把握して満足度を高めるとともに、この事業は広報、ホームページ、館内チラシにて周知をしているが、更に他の施設にポスターを張りPRし参加者の拡大に努める。また、平日にコミバスの運行時間に合わせた上映会を企画し利用者増を図る。

R4方向性⇒

【提案型市民主役事業実施】					
年度	2018	2019	2020	2021	2022
取組選択	可能	可能	不可能	不可能	不可能
実施状況	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施

取組可能な事業の詳細⇒

R3年度事業名	
市民主役事業にかかる額(単位千円):	
R4年度事業名	
市民主役事業にかかる額(単位千円):	0

R3年度 事業名	図書充実事業
R2年度 事業名	図書充実事業

総合戦略 体系	335	若くて元気のまちの創造	生涯現役で生涯青春のまち	生涯学習体制の充実
------------	-----	-------------	--------------	-----------

PLAN (計画)	部署名	文化の館	開始年度	0	終了年度	9999
	目的	蔵書を充実することにより、図書館サービスの向上を図る。				
	概要	市民のニーズに沿った質の高い蔵書をめざして、図書資料等の選書、収集、整理、保存を行う。				
	コロナ対応 の取組	特になし				
	法令 根拠 現在	市直営	実施 形態	内容		

活動指標								
指標名		単位	年度	2018	2019	2020	2021	2022
蔵書数		冊	目標値	349,000	363,000	365,000	380,000	385,000
			実績値	365,965	373,139	377,311		
成果指標								
指標名		単位	年度	2018	2019	2020	2021	2022
インターネット予約数		件	目標値	8,200	8,300	8,300	10,000	12,000
			実績値	9,538	10,058	11,529		
計算 根拠	予約件数:市民の求める資料をそろえる。		達成率	116.3	121.2	138.9		
			実数値					
			ランク	A	A	A		
前年度 ランク B、Cの 理由								

DO
(実施)

【単位:千円】

事業費	区分	2017	2018	2019	2020	2021	会計	一般会計
	予算額	14,890	14,445	14,545	14,545	14,545	事業タイ	単独事業
	決算額	14,890	14,430	14,545	14,545		経費区分	物件費

DO(実施)

No	款	項	目	事業	R3年度事業名	予算書額	うち事業額(千円)	
1	10	5	10	202	図書購入費	16,825	14,545	
2								
3								
4								
5以降								
							合計	14,545

No	R3年度補助金等名称	金額(千円)
1		
2		
3		
4		
5以降		
合計		0

事業要員	正規職員	0.3
	臨時・嘱託	4
	※所要時間	0

CHECK(評価)

法令により実施することが義務づけられているか。
(評価1いいえ・2はい) いいえ はい

行政が実施すべき事業か。
(評価1必要なし〜5必ず実施すべき) 1 2 3 4 5

住民等のニーズはあるか。
(評価1ニーズなし〜5十分にニーズあり) 1 2 3 4 5

国・県または民間のサービスと競合している事業がある。
(評価1はい・2いいえ) はい いいえ

事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業がある。
(評価1はい・2いいえ) はい いいえ

①必要性 評価点数の合計 **14 / 16 A**

効率性 今以上に、コスト削減させる余地はないか。 ある ない

今以上に、ITを活用した業務の効率化などに伴う人員削減させる余地はないか。 ある ない

有効性 今以上に、財源(補助金等、受益者負担など)を確保する余地はないか。 ある ない

今以上に、成果を向上させる余地はないか。 ある ない

②事務改善 評価点数の合計 **13 / 20 A**

ACTION

R3方向性⇒ **維持**

今年度 取組内容
市民が求める資料、情報に正確かつ迅速に応えるため、図書および資料等の選書の質を高め、蔵書の充実を図りながら、昨年度同様の形態で実施する。

R2年度の実績
蔵書の充実を図りつつ、R1.12の図書館アプリ「館図バス」運用開始に合わせてネット予約についての広報を行ったことにより、ネット予約の利用者が増加した。

R2年度実績とR3年度の経過を踏まえた課題
R2年度は新型コロナ禍と空調設備改修工事による休館期間があり、利用が減少している。
R3年度は利用回復の兆しもあったが、県緊急事態宣言発令による閉館時間短縮、滞在時間制限、閲覧機使用不可期間があり、利用が減少している。図書館は原則声を出す施設ではない。県内の図書館においては利用時間の制限をかけていないところが多いことから制限の方法は課題である。

実績と課題を踏まえたR4年度の変更点
図書資料の予約制度の広報、および資料提供の円滑化を図り、住民ニーズを意識した図書を揃えていくことで、予約数の増加を見込む。

R4方向性⇒ **維持**

【提案型市民役事業実施】					
年度	2018	2019	2020	2021	2022
取組選択	不可能	不可能	不可能	不可能	不可能
実施状況	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施

取組可能な事業の詳細⇒

R3年度事業名	
市民主役事業にかかる額(単位千円):	
R4年度事業名	
市民主役事業にかかる額(単位千円):	0

R3年度 事業名	子どもの読書活動支援(学校図書館支援センター)事業
R2年度 事業名	子どもの読書活動支援(学校図書館支援センター)事業

総合戦略 体系	323	若くて元気のまちの創造	子どもがいいきいと過ごすまち	学校図書館の充実
------------	-----	-------------	----------------	----------

PLAN (計画)	部署名	文化の館	開始年度	2005	終了年度	9999
	目的	未来を担う子どもたちの心を培うため、乳幼児から児童生徒までの読書活動を支援し、情操を豊かにするとともに考える力の向上に寄与する。				
	概要	0歳児から対象年齢別に子どもの読書支援イベントを実施し、本に親しむ環境づくりを図る。「学校図書館支援センター」を核として、学校、家庭、地域と連携協働を進め、ボランティアの育成に努める。				
	コロナ対応の取組	(R3年度) 新型コロナ感染拡大防止のため、多目的ホールの定員を1/2としているので、子どものつどいスペシャルをホール会場にする場合は参加者に上限を設けて開催する。 (R4年度) 新型コロナ感染拡大防止のため、多目的ホールの定員を1/2としているので、子どものつどいスペシャルをホール会場にする場合は参加者に上限を設けて開催する。				
法令根拠		実施形態	内容			
現在	市直営					

DO (実施)	活動指標								
	指標名		単位	年度	2018	2019	2020	2021	2022
	子どもの読書支援イベント年間開催回数(館内イベントのみ対象)	回	目標値		100	100	50	100	100
			実績値		97	91	54		
	成果指標								
	指標名		単位	年度	2018	2019	2020	2021	2022
	子どもの読書支援イベント年間参加者数(館内イベントのみ対象)	人	目標値		1,700	1,700	780	1,420	1,420
			実績値		1,733	1,785	896		
	計算根拠	事業への参加者累計	達成率		101.9	105.0	114.8		
			実数値						
		ランク		A	A	A			
前年度 ランク B、Cの 理由									

【単位:千円】

事業費	区分	2017	2018	2019	2020	2021	タイプ	会計	一般会計
	予算額	2,259	2,238	2,238	2,246	2,021		事業タイ	単独事業
	決算額	2,154	2,168	2,170	2,066			経費区分	物件費

DO(実施)

No	款	項	目	事業	R3年度事業名	予算書額	うち事業額(千円)	
1	10	5	10	203	こどもの読書支援事業費	2,021	2,021	
2								
3								
4								
5以降								
							合計	2,021

No	R3年度補助金等名称	金額(千円)
1		
2		
3		
4		
5以降		
合計		0

事業要員	正規職員	0.5
	臨時・嘱託	3.5
	※所要時間	0

CHECK(評価)

法令により実施することが義務づけられているか。
(評価1いいえ・2はい) いいえ はい

行政が実施すべき事業か。
(評価1必要なし〜5必ず実施すべき) 1 2 3 4 5

住民等のニーズはあるか。
(評価1ニーズなし〜5十分にニーズあり) 1 2 3 4 5

国・県または民間のサービスと競合している事業がある。
(評価1はい・2いいえ) はい いいえ

事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業がある。
(評価1はい・2いいえ) はい いいえ

①必要性 評価点数の合計 **14 / 16 A**

効率性 今以上に、コスト削減させる余地はないか。 ある ない

今以上に、ITを活用した業務の効率化などに伴う人員削減させる余地はないか。 ある ない

有効性 今以上に、財源(補助金等、受益者負担など)を確保する余地はないか。 ある ない

今以上に、成果を向上させる余地はないか。 ある ない

②事務改善 評価点数の合計 **13 / 20 A**

ACTION

R3方向性⇒ **維持**

今年度取組内容
こどもの読書支援事業は、市民への公的サービスであり、豊かな子どもの心を培うものとして重要な事業であるため、昨年度同様の形態で実施する。本との素敵な出会い事業については、バス利用参加園児一人当たり100円を徴収し、歳入とする。
R1年度まで生涯学習・スポーツ課所管であった子ども読書活動推進会議事務を移管し実施する。

来年度へ向けて
R2年度実績
新型コロナの影響で、4〜7月の子どもの行事中止としたため、実施回数が減少した。9月中旬から12月初めまで工事休館のため館内で行事開催できなかった。

R2年度実績とR3年度の経過を踏まえた課題
R2年3月以降7月まで行事中止のため、実施回数・参加者数が減少している。また、R2年9月14日から12月初めまで児童閲覧室使用できないため、行事実施できない。
「えほんとよちよち1・2・3」の開催曜日と開始時間を変更し、参加者増を計画したが、行事中止により実施回数が減少している。R3年8/10〜9/12まで行事中止のため、その他の行事についても実施回数・参加者数が減少している。
本との素敵な出会い事業について、R3年度からバス利用参加園児一人当たり100円を徴収し、歳入とした。

実績と課題を踏まえたR4年度の変更点
新型コロナ対感染拡大防止のため、多目的ホールの定員を1/2としているので、こどものつどいスペシャルをホールで実施する場合は参加者に上限を設けて開催する。本との素敵な出会い事業については受益者負担としてバス利用参加園児1人当たり100円を継続徴収する。

R4方向性⇒ **維持**

【提案型市民主役事業実施】					
年度	2018	2019	2020	2021	2022
取組選択	不可能	不可能	不可能	不可能	不可能
実施状況	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施

R3年度事業名	市民主役事業にかかる額(単位千円):	
R4年度事業名	市民主役事業にかかる額(単位千円):	0

取組可能な事業の詳細⇒

R3年度 事業名	読書手帳普及事業
R2年度 事業名	読書手帳普及事業

総合戦略 体系	335	若くて元気のまちの創造	生涯現役で生涯青春のまち	生涯学習体制の充実
------------	-----	-------------	--------------	-----------

PLAN (計画)	部署名	文化の館	開始年度	2014	終了年度	9999
	目的	読書手帳の発行・普及により、図書館から借りた本の履歴(読書歴)の管理を利用者自らが行うことが可能となり、「一度読んだ本を再度借りてしまうことが避けられる」「以前読んだ本を再度借りたいときなどにスムーズに手続きできる」など利用者の利便性が向上する。また、読んだ本の履歴が目に見えて増えていくことや、読んだ本の簡単な感想を書き込むことなどで、読書の楽しさが増し、読書活動推進へとつなげることができる。				
	概要	文化の館において、読書手帳を発行し、図書館利用者が読書履歴を自分で管理することが可能にする。記念手帳に、シールラベルを貼る形式にする。 H26.10.27～発行開始				
	コロナ対応の取組	(R2年度) R2年度は新型コロナ感染拡大防止のための休館(入館不可)により、シール印刷機を利用ができない期間があった。また、9月から工事による休館も控えており、シール印刷機を利用できない期間があるため、利用減は避けられない。 (R3年度) 広報さばえ、ホームページ等でさらなるPRを行う。また、読書週間に合わせ再度キャンペーンを実施し、利用者の拡大を図る。 (R4年度) 広報さばえ、ホームページ等でさらなるPRを行う。また、読書週間に合わせ再度キャンペーンを実施し、利用者の拡大を図る。				
法令 根拠		実施 形態	内容			
現在	市直営					

DO (実施)	活動指標								
	指標名		単位	年度	2018	2019	2020	2021	2022
	読書手帳の配布冊数(累計)		冊	目標値	2,500	2,800	3,200	3,500	-
				実績値	2,609	3,062	3,280		
	読書手帳のPR		回	目標値					3
				実績値					
	成果指標								
	指標名		単位	年度	2018	2019	2020	2021	2022
	シールタイプロール紙の使用量		巻	目標値	20	20	13	20	-
				実績値	16	16	11		
	計算 根拠	ロール紙の使用量で、貸出履歴の出力冊数の把握ができる。(ロール紙は1巻につき2300冊分の貸出履歴が印字可能。)		達成率	80	80	85		
				実数値					
	読書手帳の配布冊数(新規)		冊	目標値					800
				実績値					
	計算 根拠			達成率					
実数値									
			ランク	B	B	B			
前年度 ランク B、Cの 理由	R2年度は新型コロナ感染拡大防止のための休館(入館不可)により、シール印刷機を利用ができない期間があった。また、9月から11月末まで(2階は12月初めまで)工事による休館もあり、シール印刷機を利用できない期間があったため。								

【単位:千円】

事業費	区分	2017	2018	2019	2020	2021	タイプ	会計	一般会計
	予算額	59	59	59	29	23		事業タイ	単独事業
	決算額	59	59	55	6			経費区分	物件費

DO(実施)

No	款	項	目	事業	R3年度事業名	予算書額	うち事業額(千円)	
1	10	5	10	201	図書館管理運営費	84,870	23	
2								
3								
4								
5以降								
							合計	23

No	R3年度補助金等名称	金額(千円)
1	雑入	20
2		
3		
4		
5以降		
合計		20

事業要員	正規職員	0.17
	臨時・嘱託	0.17
	※所要時間	0

CHECK(評価)

法令により実施することが義務づけられているか。 (評価1いいえ・2はい)	<input checked="" type="radio"/> いいえ <input type="radio"/> はい	効率性 今以上に、コスト削減させる余地はないか。 <input type="radio"/> ある <input checked="" type="radio"/> ない
行政が実施すべき事業か。 (評価1必要なし〜5必ず実施すべき)	<input type="radio"/> 1 <input type="radio"/> 2 <input type="radio"/> 3 <input checked="" type="radio"/> 4 <input type="radio"/> 5	
住民等のニーズはあるか。 (評価1ニーズなし〜5十分にニーズあり)	<input type="radio"/> 1 <input type="radio"/> 2 <input type="radio"/> 3 <input checked="" type="radio"/> 4 <input type="radio"/> 5	有効性 今以上に、財源(補助金等、受益者負担など)を確保する余地はないか。 <input type="radio"/> ある <input checked="" type="radio"/> ない
国・県または民間のサービスと競合している事業がある。 (評価1はい・2いいえ)	<input type="radio"/> はい <input checked="" type="radio"/> いいえ	
事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業がある。 (評価1はい・2いいえ)	<input type="radio"/> はい <input checked="" type="radio"/> いいえ	②事務改善 評価点数の合計 13 / 20 A
①必要性 評価点数の合計 13 / 16 A		

ACTION

今年度	R3方向性⇒ 維持
取組内容	利用者が自らが読書履歴を楽しみながら管理できるため、読書活動推進のひとつとして、昨年度同様の形態で実施するとともに、使い方を具体的に示しPRを行う。 本との素敵な出会い事業参加者に読書手帳(ページ数を少なくした特製手帳)をプレゼントし、利用促進に努める。
来年度へ向けて	R2年度実績とR3年度の経過を踏まえた課題 R2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のための休館(入館不可)により、シール印刷機を利用できない期間があった。また、9月から工事による休館もあり、シール印刷機を利用できない期間があったため、利用減となった。 R2年度実績とR3年度の経過を踏まえた課題 R2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のための休館(入館不可)により、シール印刷機を利用できない期間があった。また、9月から工事による休館も控えており、シール印刷機を利用できない期間があったため、利用減は避けられない。 R3年度は「本との素敵な出会い事業」で読書手帳のPRを掲載した特製の読書手帳を配布し、保護者への周知に努めた。後日親子で来館してシール印刷利用の手続をする姿が見られた。 実績と課題を踏まえたR4年度の変更点 広報さばえ、ホームページ等でさらなるPRを行う。また、読書週間に合わせ再度キャンペーンを実施し、利用者の拡大を図る。また、現在は中学生以下は無料だが、中学生は2冊目以降50円いただく。
R4方向性⇒	維持

【提案型市民主役事業実施】					
年度	2018	2019	2020	2021	2022
取組選択	可能	可能	不可能	不可能	不可能
実施状況	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施

R3年度事業名	市民主役事業にかかる額(単位千円):	
R4年度事業名	市民主役事業にかかる額(単位千円):	0

取組可能な事業の詳細⇒

R3年度 事業名	「えきライブラリー」運営事業
R2年度 事業名	「えきライブラリー」運営事業

総合戦略 体系	244	若者が住みたくなるまちの創造	ものづくり教育とふるさと学習の推進	市民との協働事業の推進
------------	-----	----------------	-------------------	-------------

PLAN (計画)	部署名	文化の館	開始年度	2014	終了年度	9999
	目的	JR鯖江駅利用者の利便性向上による乗降客の増加策および駅前活性化施策の一環として、鯖江市が長期間空きスペースとなっていたJR鯖江駅2階を整備・貸出し、このスペースを活用した市民協働による事業を展開する。				
	概要	鯖江市がJR鯖江駅2階スペースを整備活用する市民協働による事業において、図書の貸出を行うための図書購入や情報検索・発信のためパソコンを配置する。				
	コロナ対応の取組	(R3年度) R3年4月より定休日が週2日になった。えきライブラリーの利用者に対しニーズ調査を実施し、配本内容を見直す。 (R4年度) えきライブラリーへの配本内容を見直し、えきライブラリーの利用者には喜ばれる蔵書構成とする。また、短くなった利用時間でも来訪できる人へのアプローチをする。				
法令根拠		実施形態	内容	図書の選書・団体貸出:市直営 運営:民間委託等		
現在	その他					

DO (実施)	活動指標							
	指標名	単位	年度	2018	2019	2020	2021	2022
	「えきライブラリー」への配本冊数	冊	目標値	1,200	1,200	920	1,200	1,200
			実績値	1,329	1,160	880		
	成果指標							
	指標名	単位	年度	2018	2019	2020	2021	2022
	返却冊数	冊	目標値	1,300	1,000	500	700	700
			実績値	1,071	973	476		
	計算根拠	「えきライブラリー」への本の返却冊数	達成率	82.4	97.3	95.2		
			実数値					
		ランク	B	A	A			
前年度 ランク B、Cの 理由								

【単位:千円】

事業費	区分	2017	2018	2019	2020	2021	タイプ	会計	一般会計
	予算額	127	55	55	55	55		事業タイ	単独事業
	決算額	15	49	55	55	55		経費区分	物件費

DO(実施)

No	款	項	目	事業	R3年度事業名	予算書額	うち事業額(千円)	
1	10	5	10	202	図書購入費	16,825	55	
2								
3								
4								
5以降								
							合計	55

No	R3年度補助金等名称	金額(千円)
1		
2		
3		
4		
5以降		
合計		0

事業要員	正規職員	0.13
	臨時・嘱託	0.26
	※所要時間	0

CHECK(評価)

法令により実施することが義務づけられているか。
(評価1いいえ・2はい) いいえ はい

行政が実施すべき事業か。
(評価1必要なし~5必ず実施すべき) 1 2 3 4 5

住民等のニーズはあるか。
(評価1ニーズなし~5十分にニーズあり) 1 2 3 4 5

国・県または民間のサービスと競合している事業がある。
(評価1はい・2いいえ) はい いいえ

事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業がある。
(評価1はい・2いいえ) はい いいえ

①必要性 評価点数の合計 **12 / 16 B**

効率性

今以上に、コスト削減させる余地はないか。
 ある ない

今以上に、ITを活用した業務の効率化などに伴う人員削減させる余地はないか。
 ある ない

有効性

今以上に、財源(補助金等、受益者負担など)を確保する余地はないか。
 ある ない

今以上に、成果を向上させる余地はないか。
 ある ない

②事務改善 評価点数の合計 **13 / 20 A**

ACTION

R3方向性⇒ **維持**

今年度 取組内容
運営事業者の都合により返却ポストの利用可能時間は、通勤通学時間帯とは重ならないため利用しにくい面もあるが、JR鯖江駅前のぎわい創出と、JR利用客や周辺住民の利便性を図るため、昨年度同様の形態で実施する。

来年度へ向けて R2年度の実績
図書館休館により貸出冊数が大幅に減少したため、返却対象の本も減少した。福井県の非常事態宣言を受けて、えきライブラリーtetoteも約2か月間(4/8~6/14)休業しており、再開後も以前よりさらに1時間程営業時間を短縮している。

R2年度実績とR3年度の経過を踏まえた課題
図書館休館により貸出冊数が大幅に減少したため、返却対象の本も減少した。R2年度は福井県の非常事態宣言を受けて、えきライブラリーtetoteも約2か月間(4/8~6/14)休業しており、再開後も以前よりさらに1時間程営業時間を短縮している。図書館側の都合で運営時間を延ばすことは困難である。休業空けは新型コロナ対策として、入替冊数を減らし、そのことにより担当職員の店内滞在時間を短縮した。R3年度はJR駅の利用者数の減少をうけて、定休日が2日に増えた。入替冊数を元に戻し、書棚の中の本の更新を図っている。

実績と課題を踏まえたR4年度の変更点
えきライブラリーへの配本内容を見直し、えきライブラリーに特化した蔵書構成とするなど、短くなった利用時間でも来訪できる人へのアプローチをする。また、利用者の傾向を見極めそのニーズに合った配本となるよう努める。

R4方向性⇒ **維持**

【提案型市民役事業実施】

年度	2018	2019	2020	2021	2022
取組選択	不可能	不可能	不可能	不可能	不可能
実施状況	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施

R3年度事業名	市民主役事業にかかる額(単位千円):	
R4年度事業名	市民主役事業にかかる額(単位千円):	0

取組可能な事業の詳細⇒

R3年度 事業名	図書館情報オープンデータ化事業
R2年度 事業名	図書館情報オープンデータ化事業

総合戦略 体系	452	安心で快適に暮らせるまちの創造	デジタルファーストの推進	データの利活用
------------	-----	-----------------	--------------	---------

PLAN (計画)	部署名	文化の館	開始年度	2015	終了年度	9999
	目的	図書館マップ「配架図」をオープンデータ化することにより、図書館内外から自分の探している本がどの書棚にあるかを知ることができる。iphoneの位置情報とあわせることで本探しが容易になるなど利用者の利便性が向上させる。平成28年1月～さばとマップ稼働。				
	概要	図書館書架にiBeaconを設置し、書架の位置情報を取得する。書架に並んだ本の分類番号と結びつけたデータを作成・公開する。				
	コロナ対応の取組	(R3年度)来館しての打合せが無理な場合、メールやり取りだけで連絡をしていたが、Zoom接続のテレビ会議等での打合せを設定する。その中で、改善箇所を依頼し利便性を高める。 (R4年度)来館しての打合せが無理な場合、メールやり取り以外に、Zoom接続のテレビ会議等での打合せを設定する。その中で、改善箇所を依頼し利便性を高め満足度の向上を図る。				
法令 根拠		実施 形態	内容			
現在	市直営					

DO (実施)	活動指標								
	指標名		単位	年度	2018	2019	2020	2021	2022
	アプリ納入業者「株式会社カール」との打合せ		回	目標値	2	2	-	1	1
				実績値	2	1	-		
	さばとマップのPR回数			目標値					3
				実績値					
	成果指標								
	指標名		単位	年度	2018	2019	2020	2021	2022
	アプリ「さばとマップ」の登録者数(新規)		人	目標値	100	100	60	100	-
				実績値	149	179	141		
	計算 根拠			達成率	149	179	235		
				実数値					
	アンケートによる満足度調査(満足度率)		%	目標値					80
				実績値					
	計算 根拠			達成率					
実数値									
			ランク	A	A	A			
前年度 ランク B、Cの 理由									

【単位:千円】

事業費	区分	2017	2018	2019	2020	2021	会計	一般会計
	予算額	65	65	65	66	66	事業タイ	単独事業
	決算額	65	65	65	66	66	経費区分	物件費

DO(実施)

No	款	項	目	事業	R3年度事業名	予算書額	うち事業額(千円)	
1	10	5	10	201	図書館管理運営費	84,870	66	
2								
3								
4								
5以降								
							合計	66

No	R3年度補助金等名称	金額(千円)
1		
2		
3		
4		
5以降		
合計		0

事業要員	正規職員	0.09
	臨時・嘱託	0
	※所要時間	0

CHECK(評価)

法令により実施することが義務づけられているか。
(評価1いいえ・2はい) いいえ はい

行政が実施すべき事業か。
(評価1必要なし〜5必ず実施すべき) 1 2 3 4 5

住民等のニーズはあるか。
(評価1ニーズなし〜5十分にニーズあり) 1 2 3 4 5

国・県または民間のサービスと競合している事業がある。
(評価1はい・2いいえ) はい いいえ

事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業がある。
(評価1はい・2いいえ) はい いいえ

①必要性 評価点数の合計 **13 / 16 A**

効率性 今以上に、コスト削減させる余地はないか。 ある ない

今以上に、ITを活用した業務の効率化などに伴う人員削減させる余地はないか。 ある ない

有効性 今以上に、財源(補助金等、受益者負担など)を確保する余地はないか。 ある ない

今以上に、成果を向上させる余地はないか。 ある ない

②事務改善 評価点数の合計 **13 / 20 A**

ACTION

R3方向性⇒

今年度 取組内容
引き続き、図書館の利便性向上を図るため、「さばとマップ」の利用促進を行い、昨年度同様の形態で実施する。

来年度へ向けて R2年度の実績
R2年度は新型コロナの影響で、事業者が来館しての打合せができなかった。しかし、「さばサーチ」において書影がみれるように改善がなされ利便性が向上した。

R2年度実績とR3年度の経過を踏まえた課題
R2年度は新型コロナの影響で、事業者が来館しての打合せができない。しかし、「さばサーチ」において書影がみれるように改善がなされ利便性が向上した。R3年度は新型コロナの影響で、事業者が来館しての打合せができなかったため、メールで連絡を取った。Zoom接続のテレビ会議等での打合せを設定する。アプリ「さばとマップ」の登録者数(新規)の統計が収集できなくなったため、アンケートによる満足度調査を行い成果指標とする。

実績と課題を踏まえたR4年度の変更点
現在、三谷コンピュータの開発したアプリ鯖図バスも運用(令和元年12月開始)している。鯖図バスの中には、さばとマップにつながるボタンがあるが、利用者には分かりにくいことから、より使いやすくなるような改善を検討する。

R4方向性⇒

【提案型市民主役事業実施】					
年度	2018	2019	2020	2021	2022
取組選択	不可能	不可能	不可能	不可能	不可能
実施状況	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施

R3年度事業名	市民主役事業にかかる額(単位千円):	
R4年度事業名	市民主役事業にかかる額(単位千円):	0

取組可能な事業の詳細⇒

R3年度 事業名	読書困難者支援事業
R2年度 事業名	読書困難者支援事業

総合戦略 体系	335	若くて元気のまちの創造	生涯現役で生涯青春のまち	生涯学習体制の充実
------------	-----	-------------	--------------	-----------

PLAN (計画)	部署名	文化の館	開始年度	2015	終了年度	9999
	目的	これまでの障害者サービスで提供してきた資料は「点字(訳)図書」「録音(テープ・CD)図書」「大活字本」などであるが、障害特性に合わせた資料やサービス方法の開拓・活用が求められている。2016年4月から「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(通称:障害者差別解消法)」が施行し、図書館としても拡大読書器などを整備することで、視覚障害者などの読書困難者にもバリアなく読書を楽しんでもらうことを目指す。				
	概要	拡大文字・白黒反転などに対応した拡大読書器を設置。また「サビエ(視覚障害者総合情報ネットワークシステムの略称)」を利用することで点字・読み上げ図書データの提供を行っていく。				
	コロナ対応の取組	特になし				
法令根拠		実施形態	内容			
現在	市直営					

DO (実施)	活動指標								
	指標名		単位	年度	2018	2019	2020	2021	2022
	啓発チラシの配布枚数(視覚障害者)	枚	目標値	100	100	100	100	-	
			実績値	100	100	0			
	読書困難者(視覚障がい者)支援事業のPR回数	回	目標値					3	
			実績値						
	成果指標								
	指標名		単位	年度	2018	2019	2020	2021	2022
	視覚障害者への視聴覚資料郵送回数	回	目標値	30	30	15	15	-	
			実績値	24	13	8			
計算根拠 1月あたり1.5回×12月		達成率	80	43	53				
		実数値							
視覚障がい者への視聴覚資料郵送対応率	%	目標値					100		
		実績値							
計算根拠 対応した件数/依頼件数×100		達成率							
		実数値							
				ランク	B	C	C		
前年度 ランク B、Cの 理由	貸出依頼回数が少なかったため。また、活動指標においてコロナ禍のためチラシ配布ができなかったことから、今後は、広報等を通してPRしていく。								

【単位:千円】

事業費	区分	2017	2018	2019	2020	2021	会計	一般会計
	予算額	40	40	40	40	40	事業タイ	単独事業
	決算額	40	40	40	40	40	経費区分	物件費

DO(実施)

No	款	項	目	事業	R3年度事業名	予算書額	うち事業額(千円)	
1	10	5	10	201	図書館管理運営費	84,870	40	
2								
3								
4								
5以降								
							合計	40

No	R3年度補助金等名称	金額(千円)
1		
2		
3		
4		
5以降		
合計		0

事業要員	正規職員	0.01
	臨時・嘱託	0.05
	※所要時間	0

CHECK(評価)

法令により実施することが義務づけられているか。
(評価1いいえ・2はい) いいえ はい

行政が実施すべき事業か。
(評価1必要なし〜5必ず実施すべき) 1 2 3 4 5

住民等のニーズはあるか。
(評価1ニーズなし〜5十分にニーズあり) 1 2 3 4 5

国・県または民間のサービスと競合している事業がある。
(評価1はい・2いいえ) はい いいえ

事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業がある。
(評価1はい・2いいえ) はい いいえ

①必要性 評価点数の合計 **11 / 16 B**

効率性

今以上に、コスト削減させる余地はないか。
 ある ない

今以上に、ITを活用した業務の効率化などに伴う人員削減させる余地はないか。
 ある ない

有効性

今以上に、財源(補助金等、受益者負担など)を確保する余地はないか。
 ある ない

今以上に、成果を向上させる余地はないか。
 ある ない

②事務改善 評価点数の合計 **13 / 20 A**

ACTION

R3方向性⇒ **維持**

今年度 取組内容
従来から提供している点字図書、録音図書、大活字本に加え、拡大読書器利用やサビエ(視覚障害者情報総合ネットワーク)を通じての図書利用サービスを昨年度同様の形態で実施し、読書困難者の読書支援を行っていく。

R2年度の実績
点字図書、録音図書、大活字本の充実に努めた。視聴覚資料郵送の利用者1名は故障していた機器を更新し、貸出依頼が再開した。拡大読書器の利用はある。当館を経由してのサビエ利用はなかった。

R2年度実績とR3年度の経過を踏まえた課題
点字図書、録音図書、大活字本の充実に努めている。視聴覚資料郵送の利用者1名は故障していた機器をR2年度に更新し、貸出依頼が再開した。拡大読書器の利用はある。当館を経由してのサビエ利用はなかった。

実績と課題を踏まえたR4年度の変更点
点字図書、録音図書、大活字本の充実に努める。利用者の申し込みそうな資料の充実に努め、依頼に対応できるようにする。また、サビエ図書館の個人利用を推し進めるなど視覚障がい者のニーズに合わせたサービスを提供する。

R4方向性⇒ **維持**

【提案型市民主役事業実施】					
年度	2018	2019	2020	2021	2022
取組選択	不可能	不可能	不可能	不可能	不可能
実施状況	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施

R3年度事業名	
市民主役事業にかかる額(単位千円):	
R4年度事業名	
市民主役事業にかかる額(単位千円):	0

取組可能な事業の詳細⇒